

第3回中山町公共施設再配置計画策定審議会

日時 令和7年10月28日（火）

午後1時30分～

場所 中山町役場 大会議室

議事概要

1 開会

2 会長あいさつ

3 協議

（1）中山町公共施設再配置計画 基本構想骨子案について

【渡部委員】アンケート回答者の年齢層に比べ、なぜなぜ大会議参加者の年齢層は低いようだが、アンケート結果と出された意向等にギャップはあったか。

【事務局】ギャップはあったと感じている。自動車運転の可否に対するギャップが大きく、運転免許証を返戻する高齢者やまだ運転免許証を持っていない子どもと運転できる世代が求める内容が異なっている。若い方々が町に対して特に要望がないという点が非常に大きい。

【渡部委員】あまり要望が強くないということもリアルな話だが、前提として、住民・職員意向や防災、歴史的な部分など、大事なことはきちんと入れた方が良いと思った。また、令和2年の594,000 m³について、これはどのくらいの確率になるのか。アンケートの結果を見ても防災が関心の中心だと感じたので、流域水害対策計画以上の想定についてもしっかりと位置づけというか、説明が必要なのかなと思った。

【事務局】ケーススタディの資料の中で、現状の町役場のところをご覧いただくと、令和3年ベースで評価した場合、1/30の確率でも1階は浸水するという想定になっている。令和13年になると、1/50でも浸水がないというように、町の主要施設についてリスク分析をしていただいている。

【渡部委員】骨子の中には、令和2年を超える場合も想定しつつ、それもしつかり考えられているということが、立地の適正に繋がるのかなと思う。

【事務局】町民の皆さんから防災面に関して多くご意見をいただいているので、そういった部分も盛り込んで、わかりやすく説明資料をつくりていきたい。

【鎌田委員】事務局から説明のあった内容については、相対的に賛成だが、防災まちづくりの方向性と流域水害対策計画との整合性はどうなっているのか。空いた公共用地を住宅用地にするとなると、浸水区域の土地を売ることになるが、安全だと言えるのか。

【事務局】人口を維持し、町を行政エリアとして保つためには、住んでいただくことも必要なので、現在見直し中の立地適正化計画の居住誘導の考え方との整合性を図っていく。

【鎌田委員】国道 458 号及び国道 112 号の整備が進んでいるが、国道 458 号の活用を考えていないのではないかと感じた。また、中山町は既にコンパクトシティだと思う。その中で豊田地区と長崎地区をネットワークで繋ぐことができれば、もっと良いのではないかと思う。豊田地区にある公共施設「保健福祉センター」は集約化されて移転しても、跡地が住宅地になることはないだろう。それを考えると、保健福祉センターは維持しつつ、ネットワークで繋いではどうか。デジタル技術の進展により、職員が一か所に集まらなければいけないという状況ではないと思うので、無理に一か所に集約する必要はないのではないかと思う。もう少し弾力的に検討してほしい。

【事務局】今回は基本的に長寿命化しない施設を対象と考えており、保健福祉センターは長寿命化施設となっている。しかし、老朽化が進んでいる役場庁舎と中央公民館を単純に建て替えるだけではなく、それらを中心として、全てのサービスがどうあるべきかということも含めて検討しているところ。場所については、最大限公平で事業スピードが速く、財政負担が小さいところということで、来年度検討していく。

【富樫委員】「防災」という言葉が多く出てきているので、そのような意識を持って計画策定を進めていくのが良いと感じた。町民アンケートについては、本計画策定に関するものではなく、町の総合発展計画等に係るものであるためか、令和 2 年の災害があったにもかかわらず、資料 3 のアンケート結果 6 ページにおいて、公共施設再配置事業が I のエリアに無いため、一見すると、防災は重要だけど、現状でも不満ではないと見え、防災を意識したハード整備の必要性が弱く、本計画策定の資料として、どう関連づけていくのかと思っていた。「なぜなぜ大会議」において、「新しい公共施設に期待したいこと」というカテゴリーを設定したことで、防災というキーワードは見当たらないものの、施設の集約化等、ハード整備の必要性につながるようにまとまつたのでよかったです。今回の再配置計画策定は、令和 2 年の災害が契機になったと思われる所以、基本構想については、「防災」、「安全安心」ということをキーワードとしてきちんと表現してはどうか。資料 1 の 47 ページに「比較的安全な宅地」とあるが、行政が作

る資料として、比較的という表現は適切なのか気になった。

【事務局】防災安全対策室で担当していながら、うまく防災の色が出せていないという指摘については、きちんと対応させていただきたい。「比較的安全」という表現についても、どのように表現するべきか検討する。

【鈴木委員】防災はとても重要であり、住みやすい町の土台には安全・安心というのが基本だと思っている。基本理念の中でも水害対策ということで、昨年度策定した流域水害対策計画について触れられているが、様々な対策を組み合わせて 594,000 m³を解消していくこととしている。この計画は全国的にも良い評価を受けているが、策定しただけでは解消しない。各方面で解消に向けた対策に取組み、協力して推進していくことが重要なので、今回示された基本構想に位置付けていただいたことはとても良いことだと思う。

【秋葉委員】先ほど、再配置事業は更新すべき公共施設に限るという話があり、なるほどと思ったが、候補地が公共用地に限るということが原則として打ち出された中で、その理由がこの骨子案の内容からはあまり見えてこない。新たな土地を買わない、既存の公共用地の中で考えるというところの説明が足りないのでないかと思うので、補足をお願いしたい。

【事務局】個別施設計画の中で、公共施設を長寿命化する施設と長寿命化には適さないので更新が必要な施設とに整理している。その更新するという施設をどうするのかということをまとめていくのが再配置事業。単純に建て替えるのではなく、全ての機能について最適化を図ることとしているので、機能を集約されることによって機能が変わってしまう施設もあるかもしれないが、現時点としては、長寿命化しないと位置付けられている施設を対象としている。また、「公共用地に限る」と記載しているが、例えば、施設を整備する上で道路拡幅が必要になることもあるかもしれないが、ご指摘の点については、もう少し表現を見直したい。特に水田は防災面で田んぼダムの機能として重要なので、保全が必要。現在農地となっているようなゼロベースのところを選定しないということをこの中で示したいと考えている。

【渡部委員】資料 1 の 49 ページで場所として、幹線道路にある程度接続しているところという話しがあったが、その際には道路を跨がないような配置も大事だと考える。交通弱者は歩いて違う施設・機能を転々とする場合もあつたりするので、車中心の生活ではあるが、歩行者の意識として、大きな道を横断しなくとも利用できるということが大事ではないかと思う。資料 1 38 ページの浸水シミュレーションの一番右側は、対策を行えば浸水区域が少なくなっていくという考え方だとは思うが、L1・L2 も重ねると良いのではないか。公共施設は避難場所になる可能性がある。基本的には浸水するところを選ば

ないと思うので、なぜ浸水するところを選ぶのかということがもう少しあわるようとした方が良い。洪水は起るものだし、自然災害は想定できない部分があると思うので、避難の時間をきちんと考へているとか、災害があつて水が引くまでの時間は1年でみたらそこまで長い時間ではないので、それ以外のところで豊かに楽しく中山町で暮らしましようということ、非常時の時はこうできますというようなことを示すことが大事だと思うので、そういうった資料もあった方が良い良いと思う。

また、田んぼダムを実施した場合のインセンティブはあるのか。なかなか上流の人は積極的に取り組んでくれないという話を聞いたことがあるので、全体の関係がわかつていることが大事かなと思う。中山町ではそういうのがあるのか気になつたので教えてほしい。

【事務局】L1・L2 クラスになると、中山町では浸水は避けられないと考えている。大雨による災害については、早期の避難誘導の呼びかけと広域避難、住まいの工夫とか、それをアレンジした施設の工夫のようなところも盛り込めればと考えている。ハザード内に公共施設をつくるべきではないというセオリーもあるが、中山町にはハザードが無い場所が少ない。可能な限り将来的な見通しをたてると、1/30、1/50 レベルでの浸水が減少していくというのであれば、現状では立地適正化計画で誘導しているような箇所が公共施設や都市機能の誘導箇所としては適切ではないかと考えている。

田んぼダムに係る町からのインセンティブは今現在無い状況。中山町の田んぼダムの取り組みは、土地改良区が主体となっており、財源としては多面的交付金を活用して実施しているとのこと。田んぼダムは防災面で非常に有効だと思っているので、田んぼを維持するということについては、公共施設再配置事業の方でもきちんと位置付けていく。

【渡部委員】絶対安全な場所はないということもきちんと伝え、皆さんの意識が高い町であることが大事ではないかと思う。

田んぼダムは先進地も少ないとと思うので、是非実施していただきたい。資料2の基本構想骨子について、「⑪景観と調和した整備を行う」とあるが、ここで自然への配慮ということを入れた方が良いのではないかと思う。また、基本理念の中にPPPとか民間活用とか、ちりばめられたような感じで書いてあるので、もう少しまとめると良いのではないかと思う。

【後藤委員】基本的にこういった方向性については賛成。他の市町村も、効率的な運用や民間の力を使っての運営が増えてきているところなので、まとめることで効率的なサービスとか、経費部分の削減なんということも期待できるので、方向性としては良いのかなと思う。是非若い方に夢があるというか、

中山町に住んで良かったという思いを持ってもらえるように取り組んでいただければと思う。

【鎌田委員】渡部委員からあったように、景観も大事な点だと思う。ずっと中山町に住んでいて気になることは、豊田の山を見ると、昔は春になると真っ白に見えていた。それは何かというと、スモモの木だった。スモモの花が一面に咲いて真っ白だった。それが、農業者が少なくなったことによって、スモモの木は伐採され、それも経済の成り行きで仕方のないことだが、その後、葛の葉が生い茂った。葛の葉は表面に葉がたくさんあっても、土を留める効果は全くないため、小学校の裏山が崩れた。説明の中に農地保全とあったが、桜の木を植樹するなど、その後の管理は大変かと思うが、そういう視点も必要ではないかと思う。活断層もあるが、聞くところによると、活断層の場所よりも、少し離れた軟弱地盤の液状化の方がさらに大変らしい。そういうことも頭に入れて安全な場所の選定をお願いしたい。昭和42年の羽越水害や1/100の確率の水害も考慮してほしい。

【事務局】中山町の開業補助金を活用して開業された方が13件ほどある。そのうち約3件が、非常に眺めがいいということで中山町を選んだと聞いている。田んぼダムだけではなく、山地排水を保水するという点では、果樹を含めた森林の保全というのは非常に重要であると考えている。

【鈴木委員】1/50、1/100の部分がわかりづらいとのことだが、これはいつ来るのかということはわからず、あくまで確率の話となっている。流域水害対策計画は令和2年の雨を対象としているが、全ての床上浸水が解消するかというとそうではなく、数軒残るような計画になっているのが実情。地区でも説明したが、これが完結の計画だとは思っていない。いろいろ対策を組み合わせてさらに浸水を減らしていく必要があると考えている。昭和51年の浸水は外水も少し入っているから除いたという話しを聞いている。令和2年以上の雨が降った時も床上浸水にならないように、今後も計画を見直していくかなくてはならないと考えている。

【高澤委員長】町民の方から防災に関する心配や関心が高いということで、こちらの位置づけについて確認してほしいという点について多くご意見をいただいたので、是非素案にする際にはご検討いただきたい。立地適正化計画の防災指針と非常に重要な関連があるので、機会があればそちらの方についても説明をしてほしい。当審議会のミッションは再配置計画についてであるが、町全体について知ることが非常に重要なと思うので、お願いしたい。

(2) その他

- ・第2回審議会の議事概要について

4 閉会